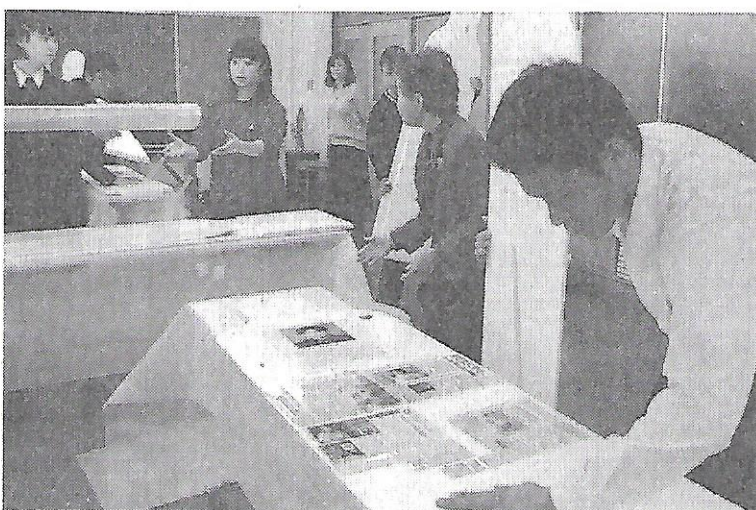


(第3種郵便物認可)



メッセンジャーの撤収をする生徒と児島さん(右から2人目) 桜井市桜井の桜井高

生命を越すものはない

桜井高で「生命のメッセージ展」

KENTO「奇跡」を大切に 児島代表

桜井

犯罪や交通事故などで命を奪われた犠牲者の等身大オブジェを通して命の重さを伝える「生命(いのち)のメッセージ展」が、9日間にわたり、桜井市桜井の県立桜井高校で開かれた。

同校では3年ぶり2回目。全校生徒に、生前の写真や亡くなった経緯を添えたオブジェ「メッセンジャー」と出会ってほしいとの思いから企画された。最終日には、同展の学校開催を推進するNPO法人「KENTO」の児島早苗代表(68) 奈良市が、全校生

徒約940人を前に、「生命を越すものはない」で講演。平成12年に長男健仁さん(当時18歳)を交通事故で亡くした体験を語り「今生きていることは大変な奇跡。たった一つの命を大切にしてほしい」と呼び掛けた。2年生の富樫睦さん(17)は「聞いていて

何度も涙が出た。毎日大切にしなければと思った」と話した。このあと有志生徒二十数人が30体の「メッセンジャー」の撤収、送り出しに参加。3年生の大川結生さん(18)は「命の大切さを再確認させてくれたメッセンジャーに感謝を伝えたい」と話した。